

紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

8


平成30年度 教職大学院 教職実践研究フォーラムを開催

平成31年3月3日に、香川大学教職大学院の平成30年度教職実践研究フォーラムが開催されました。当日は、徳島、愛媛、岡山、埼玉等、県外からの参加者を含めて合計123名が集い、盛会に行われました。全体会では、有馬専攻長の挨拶に続いて、香川県教育委員会義務教育課の課長 小柳和代様よりご挨拶をいただきました。

その後、3つの部会に分かれて、実践研究に取り組んできました。14名の院生が発表を行い、活発な質疑応答がなされました。学校力開発、授業力開発、特別支援教育コーディネーターコースそれぞれの特徴ある取組が発表されました。限られた時間の中での質疑で、皆様にはご意見を十分に伺うことができなかったかもしれませんが、ご容赦ください。


**他大学の院生と交流し、
新たな刺激を**


今年度も、他大学の院生と交流する場がいくつかありました。簡単に紹介します。

平成30年7月28日には、鳴門教育大学で四国の教職大学院の院生が集い交流する場がもたれました。本学からも3名の院生（吉田さん、原さん、藤本さん）が参加しました。

8月4日には、本学で開催された教職実践研究交流会に四国内の教職大学院生が数名参加してくれました。また、8月21・22日に本学から発信した道徳、特別支援教育に関する遠隔授業を通じて、鳴門教育大、愛媛大の教職大学院生と意見交流の場を体験しました。

12月9日に東京で開催された日本教職大学院協会研究大会のポスターセッションに院生（廣瀬さん）が参加し、実践研究の取組を発表し他大学の院生と質疑の場を経験しました（左側写真）。

平成31年2月10日に山口大学で開催された教職研修会「ちゃぶ台次世代コーホート」に3名の院生（原さん、近藤さん、伊瀬さん）と修了生の橘さんが参加し、分科会での発表を通じて山口大学の教職大学院生や山口県内の先生方と交流しました。

それ以外にも、各種学会や道徳ラボ研修会を通じて、他大学の先生方や院生と交流する場もありました。このような交流を通して、多くの出会いと新たな知見を得て、自らの実践研究への示唆を得ることができました。貴重な刺激となったようです。

**2020年度から
教職大学院が
拡充する予定!**

現在、2020年度からの拡充に向けて準備をしています。主な変更点を紹介します。

- 香川県の教員研修と連携を図ります。
- 教科教育に関する授業科目を充実します。
- 特別支援学校教諭専修免許状の取得を可能にします。特別支援教育でも学部卒生を受け入れます。

（詳しくは、後日HP等で紹介する予定）

正しく見極め 寄り添った支援・指導を 大切に

特別支援教育コーディネーターコース

吉田 由実子

大学院では本当に多くの貴重な経験をさせていただきました。講義では、大学院の先生方の授業はもちろんですが、それ以外にも他の学校種の先生方と意見交換をしたり、置籍校の現状を踏まえて発表をしたりすることで、これから目指していくべき「学校」の姿や、自分が教員として今後進んでいく方向性が少しずつはっきりしてきたような気がしています。また附属特別支援学校や特別支援教室「すばる」での実習を通して、目の前の一人ひとりの子どもの実態をしっかりと見極め、寄り添った支援・指導を行うことの大切さを学ぶことができました。大学院で学んだ貴重な経験を大切にしながら、これからもずっと「教育」に携わっていきたいと思っています。

この1年間、私にとって最大の収穫は、多角的な視点で学校課題について考えることができたことです。教職大学院において、先生方の多彩な講義を拝聴したり、課題について話し合ったりをすることを通して、現場では得られない理論や、今までの経験の裏付けとなる考え方を多く学べました。

また、今までの自分の教職経験を客観的に振り返る機会が得られ、切磋琢磨し合える仲間と出会えたことにも感謝しています。今後もさらに研究を深めていき、香川大学教職大学院での貴重な学びを学校現場で活かしていきたいと思います。

教職大学院での学び

学校力開発コース

赤井 真三子

理論から実践へ 実践から理論へ

授業力開発コース

伊瀬 吏沙

「どの子もわかる・できる授業をしたい！」私の思いは今も昔も変わりません。この1年で大きく変わったのは“授業の見方”です。教職大学院で理論を学び直すことで、今まで感覚的に行ってきたこと（発問や指示、板書、支援等）を分析的に振り返ることができました。自分の授業がなぜうまくいったのか、またなぜうまくいかなかったのか、根拠を持って説明できるようになったことが一番の成果です。

授業力を高めるためには、確かな指導法が必要です。しかし、それ以上に授業を考察する力が不可欠だと感じています。教職大学院で得た新たな視点を活かして、現場の先生方とともによりよい授業をつくり上げていきたいです。

この1年、自分の教師生活や教職に対する思いを振り返る支えとなったのは、2つの「みかた」です。

1つ目は物事の「見方」です。講義の中で、近年の法整備や学校の状況に目を向け、根拠を得ることの大切さを学びました。また鳴門教育大学で行われた教職大学院生相互交流会では、教育実践に対する見方を広げることができました。

2つ目は出会いで得たたくさんの「味方」です。自身の研究の中で壁にぶつかった時、励ましてくれる3期生の仲間や、温かく見守り、ご指導して下さる先生方がいました。

たくさんの「みかた」をこれからも大切に、来年度からの実践をより豊かなものにしたいです。

様々な「みかた」を 得た1年

授業力開発コース

藤本 彩織



「香川の教育づくり発表会」で修了生が 実践発表：フォローアップ・プログラム

平成30年12月27日にアイレックス香川において、昨年度の修了生6名がフォローアップ・プログラムの一環として、実践発表を行いました。皆さん、大学院で学ばれたことをもとに、学校での継続的な取組事例や新たな取組について、15分間の発表と短時間でしたが、分かりやすく伝えてくれました。学び続ける教員として、今後も地道な実践の継続を応援していきたいです。あせらずに一歩一歩前進しましょう。